

# 2023年度 事業計画

社会福祉法人温知福祉会  
特別養護老人ホーム 枝雪零苑

## 2023年度 特別養護老人ホーム枝雪零苑事業計画

介護保険制度は利用者個人と施設の契約により成り立つことを各職員が自覚し、介護保険の変革期において適切に対応できるよう、福祉施設としての意識、モラル向上に、より一層努力する。

常に利用者の立場に立った福祉サービスを心掛け、個々のケアプランに沿った利用者サービスに努める。

### 1. 重点目標

- (1) 品質マネジメントシステムに沿った業務強化と個々のスキルアップを図る。
- (2) 最大限のサービス提供のため、内部教育の充実と職員の資質向上のための各種資格取得に向けた取り組みを実践する。
- (3) 安全管理対策の充実を図り事故防止に努めると共に、職員個々の自己管理の強化と標準予防対策を徹底し、施設に感染症を持ち込まない強い意識の下、入所者が安心して生活できる施設作りに務める。
- (4) 地域社会に対して、さらに開放的な施設づくりを心がけ、相談・利用しやすい事業所の雰囲気作りに務める。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の動向を常に意識し、施設内外の種々の活動に関しては利用者の安全を第一に、状況を確認しながらその都度適切な対応を行っていく。

### 2. 実践目標

#### (1) 安全対策

- ① 消防署並びに地元関係機関との連携を密にし、有事に備える。
- ② 防火管理者講習会・自衛消防訓練講習等に職員の受講を勧め、防災予防意識の向上を図る。
- ③ 防火設備及び防火用具等の確保と点検を定期的実施するとともに、火災、地震等の災害に備え「自衛消防計画」に基づき毎月1回の訓練を実施する。

#### (2) 職場研修の強化

- ① 各職種における専門性、また組織力を高めることを目的とし、各職種主催の研修を実施する。
- ② 動画配信を含む外部研修への参加と研修内容報告の実施を強化し、個々の能力向上と職員全体の資質向上に努める。
- ③ 各職種に必要な資格取得を積極的に推進する。
- ④ 感染予防や危機管理能力向上のための内部研修を強化し、感染予防及び拡大防止、

事故防止に繋げる。

### (3) 地域福祉

- ①実習・研修生の受入を積極的にすすめ、それぞれに応じた実習目的を達成できるように指導の充実に努める。また、現場見学や介護実践を通して施設介護の理解と認識を高め人材育成に努める。
- ②各居宅介護支援事業所との連携を深めて希望状況の把握を行い、空きベッド（入院利用者）の有効活用も念頭におき、利用者の希望に応えられるように努める。

### (4) 地域との交流

- ①希望外出やドライブ等利用者の外出の機会を増やし、施設自ら地域へ出ていく活動を継続し、地域との関わりを深め施設の広報に努める。
- ②ボランティアや地域団体、慰問の受入を積極的に実施する事で地域との交流を図り、利用者の生活の充実と開放的な施設作りを目指す。
- ③地域の保育園・小中学校及び高等学校との連携を密にし、利用者との交流の場を設ける。

### (5) 施設の環境整備

- ①災害時に備え、備品の確保と設備の補修や点検を計画的に実施する。
- ②環境美化委員会が中心となり、年間計画に基づいた施設内外の環境整備を実施する。
- ③利用者一人一人に適した居室環境と安全配慮に努める。

### (6) 管理

- ①組織力の強化と開発を図る。
  - ・各会議・委員会が年間活動計画書を作成し、その目的・方法を明確にすることにより、効果的な活動を展開する。
  - ・接遇の充実による施設全体の資質の向上に努める。
- ②マンパワーの強化と確保により、施設理念と連携した業務遂行の円滑を図る。
  - ・個人及び各部門別の目標と管理を認識させ実践する。
- ③職員の健康管理の充実に努める。
  - ・定期健康診断・インフルエンザ予防接種・人間ドック・乳がん検診・子宮がん検診・ストレスチェック等の検診を推進し、健康管理に努める。

### 3. 部門別管理目標

#### <特別養護老人ホーム 枝雪零苑>

##### (介護)

- ① 2022年度はA該当の直接介護中の事故が1件発生したため、2023年度は利用者の方の状態を把握しながら介助を行いA該当の直接介護中の事故0件とする。
- ② 教育プログラムに基づいて勉強会を実施し質の向上を図る。参加できなかった職員へのフォローアップ100%を目標とする。

##### (看護)

- ① 2022年度は褥瘡発生、月平均5.4件であったため、2023年度、褥瘡発生を月平均4.0件以下を目標とする。
- ② 2022年度、入所者、職員のインフルエンザ感染発症やノロウイルスの発生は0件。しかし、新型コロナウイルス陽性者は職員と入所者合わせ100件発生した。2023年度、標準予防策の徹底と感染症に対する知識を高め、ノロウイルス、インフルエンザの他、コロナウイルス等も含めて入所者の感染発生0件を目標とする。

##### (介護支援専門員)

- ① 利用者のサービス満足度(モニタリングを使用し評価：5ポイント満点)が2022年度は4.58ポイントと目標値を達成した。2023年度は、平均4.6ポイントを目標とし、利用者・家族の意向を反映しながら他職種共同でプラン作成に努める。

##### (生活相談員)

- ① 2022年度の特養在籍率は96.75%だったが、2023年度は他機関及び他部門との連携により空床期間の短縮に努め、特養在籍率97.5%を目標とする(稼働率目標は93.0%)。
- ② 2022年度のショートステイ稼働率は65.93%だったが、2023年度は各居宅事業所へ空床状況の紹介を行いながら連携を図り、ショートステイ利用者の確保をすると共に、利用を調整しながら空床を減らすように努めてショートステイ稼働率70.0%を目標とする。

##### (機能訓練指導員)

- ① 特養入所者の月別機能訓練実施率が2022年度は92.3%であり、目標値を達成した。2023年度は一週間に一回以上、個別または生活リハビリを提供する。また一週間に一回以上、集団リハビリまたは作業活動を提供し、実施率93%以上を目標とする。集団リハビリの実施については感染状況に応じて適宜検討していく。

②機能訓練加算算定率が2022年度は100%であった。入所者の機能訓練計画書を作成し、その同意を得るように努め、2023年度も継続して機能訓練加算算定率100%を目標とする。

(管理栄養士)

①低栄養による高リスク者の割合が2022年度は7.0%であった。2023年度は食事摂取状態をこまめに観察し、栄養状態が悪化している方だけでなく摂取状態に問題のある方へも早期に介入し、低栄養による高リスク者の割合を6.5%以下に抑える。

②嗜好調査や検食簿での意見をもとに給食委員や委託業者と話し合い、献立や食事内容を見直し喫食率を高める。

(事務)

①業務進捗状況や個人の力量を把握するため、四半期ごとに一回以上の事務会議を開催し、状況に応じて教育訓練を実施することで知識の向上に努める。

②グローブ・マスク等消耗品の流通状況や価格変動について業者から情報を収集し、適切な製品を検討することで、施設内の供給量の安定と経費削減に努める。

4. 業務計画 ※別紙計画書

## 2023年度 枝雪零苑デイサービスセンター事業計画

### 事業

指定通所介護事業

指定介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業

指定介護予防・指定認知症対応型通所介護（休止）

#### 1. 事業の目的

枝雪零苑デイサービスセンターは、在宅の要介護状態及び要支援状態等にある高齢者に対し、適切な介護を提供することによって、利用者の心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担の軽減を図ることを目的とする。

#### 2. 事業運営の基本方針

指定通所介護事業（介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業含む）及び指定認知症対応型通所介護事業（介護予防含む）は、要介護及び要支援状態等になった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び身体機能の維持向上並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るものとする。

#### 3. 事業内容

- ①生活相談      ②日常動作訓練      ③健康チェック      ④送迎
- ⑤入浴サービス      ⑥給食サービス

#### 4. 対象者

会津若松市の区域で要介護及び要支援認定等を受けている方及び事業対象者。

#### 5. 職員配置

所長(兼)1名      事務員(兼)1名      生活相談員2名（介護職員兼務1名含む）  
看護職員2名（特養兼務1名含む）      機能訓練指導員(看護職員兼務)1名  
介護職員4名(生活相談員兼務1名含む)

#### 6. 2023年度目標

- ①2022年度は一般型通所介護(介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業を含む)の稼働率は58.47%であった。2023年度は、お試し利用を推進すると共に、

運動やレクリエーションの充実を図り、稼働率65%を目標とする。

(認知症対応型通所介護(介護予防含む)は休止)

## 7. 管理関係

- ①居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターと利用者家族との連携を強化し、円滑なサービス提供に努める。
- ②現在休止中の認知症型通所介護事業に関して今後のサービスの必要性について検討し、事業の存続又は廃止の方向性を決定する。
- ③家族介護者教室を開催し、地域における福祉施設として役割を果たすと同時に、施設のサービスに対する理解・浸透に努める。
- ④感染症の予防対策として、施設内外の種々の活動に関しては利用者の安全を第一に、感染状況を確認しながら、その都度適切な対応を行う。

## 8. 利用者への配慮

- ①通所介護計画書に則り、利用者個々に合ったサービスを提供する。
- ②レクリエーションについては、季節感のある行事を取り入れ楽しんで頂けるよう努める。  
また認知症予防対策として脳トレーニングも継続して実施する。
- ③食事提供については、毎回3種類のメニューを用意し選択していただくことにより、利用者の嗜好に合わせた食事サービスを提供する。
- ④利用者の身体機能維持の為、集団リハビリ体操、食前体操、パワーあっぷ体操、足踏み運動等、1日を通して体を動かす機会を多く持ち、基礎代謝を高め健康維持に繋がるような活動実施を、デイサービスの新たな特色として積極的に実施する。
- ⑤介護技術の進歩に伴う新しい介護技術を習得し、適切な介護サービスを提供する。
- ⑥利用者自身が自由に過ごすことが出来る空間作りを継続して行う。
- ⑦新型コロナウイルス感染症予防の為に、職員の自己管理はもちろんのこと、利用者の朝の聞き取りチェック・うがい・手洗い・手指消毒、換気、密にならない等、予防対策を徹底して行い、施設内に感染症を持ち込まないよう危機管理意識を強く持ち日々の業務にあたる。

## 9. 業務計画

\*別紙参照